



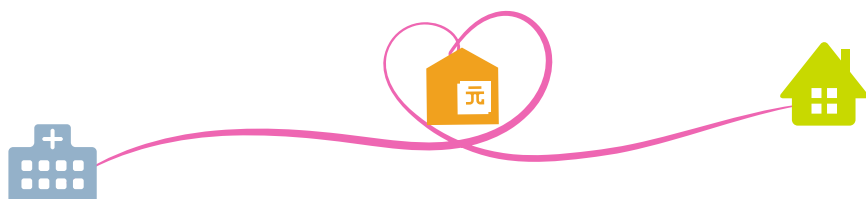
がんとむきあう会のこれまでとこれからをお伝えする 〳〵STORY BOOK〳〵





がんとむきあう会は、場、を起点に、考え、行動します。

がんとむきあい、
その人らしく、
共にいる場。



がんとむきあうとはどういうことでしょうか。わたしたちはがんに影響を受ける患者や家族、友人、遺族など、さまざまな立場や背景の方の相談を受けてきました。相談はどれもが切実で、一つひとつ内容は異なるものでした。同じ人でも治療や療養の時々で、悩みや考え方、捉え方も違います。がんとむきあい方は人それぞれで、折々でいろいろであって良い。正解はないのだと学ばせていただきました。

ただ一つ、強く実感していることは、`場、の存在です。がんを抱えた方は、`がん、とわかった時から、生活のあらゆる局面で`がんであること、に直面します。治療や療養はもちろん、仕事や生活、家族、お金のことなど対処しなければならない問題が両肩にのしかかってきます。病院のなかのつながりから一歩外に出ると、気持ちを共有できる人との関係は希薄になり、その重さはぐっと増してきます。

病院と家とのあいだにほっと安心できる場があったらどうでしょう。両肩の荷物を下ろして一息つくことができる。孤りではないと感じることができる。同じ病気や共通の悩みを持つ人たちとつながることができる。専門的な知識を身に付けたり、生活の質を高める方法を学んだり、自分の経験を活かした社会参加もできる。何よりも、その人が、その人らしくいることができる…、そんな場。

わたしたちは金沢の地に、そして全国に、そんな場があることを願って活動しています。



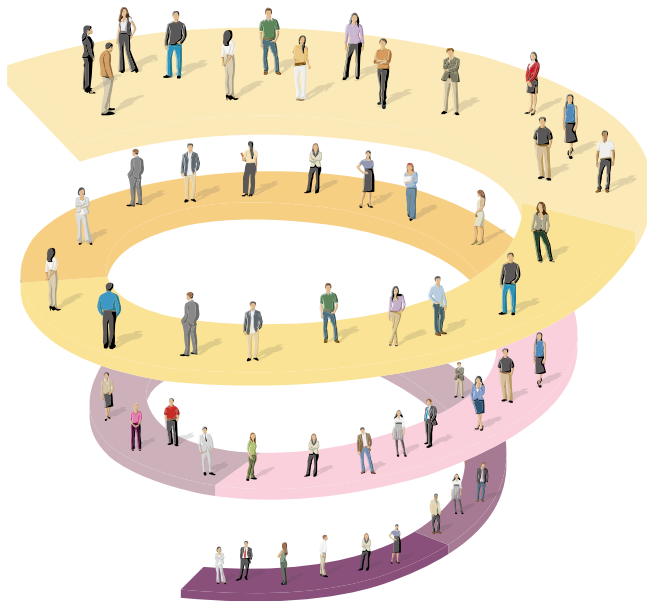
がんともきあう会はがんを抱えた人が直面する社会課題の解決に取り組めます。

がんを抱える人の背後には孤立や孤独が隠れていることがあります。

人はがんになるとそれまでの生活が一変し、これまでとは違う人生のレールに乗ったと感じます。肉体的にも精神的にも社会的にも追い詰められます。家族や友人、職場など、それまでの関係では助けを求めたり、求めたくないことが出てきます。持っていき場のない悩みや不安を抱えたまま、自分ひとりではどうすることもできない状況に追い詰められます。

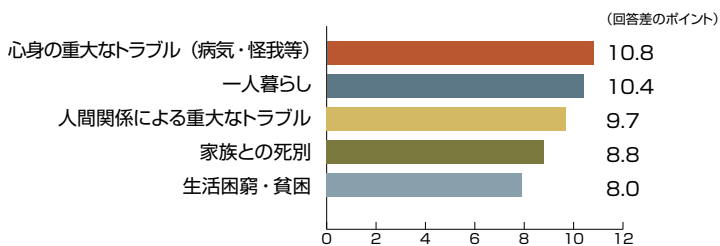
病院の外では「助け」を求める手を伸ばしても、その手につながる手を容易に見つけだすことはできません。いつしか社会から孤立したり望んでいない孤独に直面したりします。孤立と孤独は、がんを抱えた人をさらに肉体的にも精神的にも社会的にも追い詰めます。いつしかその人ひとりでは抜け出すことができない負のループ（循環）に追いやられます。

がんともきあう会はがんを抱えた人の背後に潜む孤立と孤独を解消する一助として、病院と家のあいだにある常設の場づくりを通して、認定 NPO 法人としてがんに関連した社会課題の解決に取り組んでいます。

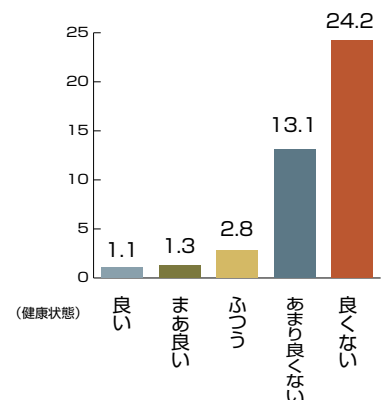


孤独はその人が感じる主観的な感情です。孤立は社会との接点が少ない客観的な状態です。客観的に孤立していなくても、主観的に孤独に陥ることがあります。客観的に孤立していても、主観的に孤独を感じないこともあります。多くは孤独を感じている人は孤立していて、孤立している人は孤独を抱えやすい傾向があります。がんを抱えると望まない孤独に直面することが多く、それがさらなる孤独や孤立を招いて問題を深刻化する負のループ（循環）に陥りやすくなります。

現在の孤独感に影響を与えたと思う出来事



孤独感が「しばしばある・常にある」と回答した人の心身の健康状態



孤独・孤立の実態把握に関する全国調査（令和5年）内閣官房孤独・孤立対策担当室のデータを元に作成

●

解決のための
考え方

がんとむきあう会のすべての活動の中心にはがんを抱えた人がいます。



がんを抱えた人がだれ一人取り残されない社会を目指して。

がんとむきあう会の中心にはがんを抱えた人がいます。

がんを抱えた人は「医療」「生活」「公共」の

3つの島となる社会の側面と水路でつながり

行き来したり、交わり合ったりしながら、

人生という外洋に出ていきます。

がんとむきあう会はがんを抱えた人が直面する

「医療」「生活」「公共」で直面する悩みと問題や、

そこから生じる孤立と孤独に寄り添います。

その人が人生の外洋でその人らしくいることができるように、

水路を流れる水がいつも澱みなく、清らかであるように、

さまざまな方面から事業に取り組んでいます。

がんを抱えた人が直面する悩みと問題	
医療	医療者とのコミュニケーションのあり方、治療の選択や今後の見通し、症状や抗がん剤などの副作用やアピアランスなど、気持ちの整理やこころの準備が追いつかないことによる不安やいらだち、落ち込みなど。
生活	「話を聞いてくれる相手がいない」などの疎外感やそこから生じる孤独や孤立。家族や親族、友人など周囲の人間関係の悩み。治療や病状の変化による身体症状や体力の低下、生活上の困難や外出、通院の障害など。
公共	就労や就職、学業の持続や選択などキャリアやライフプランへの影響。さまざまな支援制度の情報の取得や利用の困難、治療や療養の実際と支援制度の中身のギャップ。がんの知識の不足や間違った理解による偏見など。



がんとむきあう会は認定 NPO 法人として2つの軸から生まれる事業に継続的に取り組んでいます。

〴〵場、と 〴〵つながり、から生まれる2つの事業軸

がんとむきあう会は認定 NPO 法人として国のがん対策推進基本計画である「がんになっても安心して生活し、尊厳を持って生きることのできる地域共生社会の実現」の一助となることを目標に据え、がんとむきあう会の〴〵場、から生まれる事業と、がんとむきあう会の〴〵つながり、から生まれる事業の2つの事業軸に取り組んでいます。

〴〵場、から生まれる事業

〴〵場、があるから発想できる。
〴〵場、があるから実行できる。
〴〵場、があるからぶれない。

がんとむきあう会の事業のひとつの軸には常設の〴〵場、である「元ちゃんハウス」があります。



がんとむきあう会

〴〵つながり、から生まれる事業

〴〵つながり、が力を生む。
〴〵つながり、が面になる。
〴〵つながり、が自在になる。

がんとむきあう会の事業のひとつの軸には〴〵つながり、から生まれる「相利」があります。



元ちゃんハウス

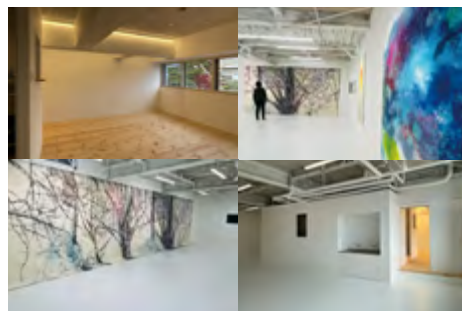
(げんちゃんハウス)

元ちゃんハウスは越屋メディカルケア株式会社の本社移転に伴う建物無償貸与を受け開設されました。金沢医療センターと金沢大学附属病院の間に位置し、通院や買い物のついでに立ち寄れる至便な地にあります。1階から4階まで館内はエレベーターで行き来ができ、オストメイト対応のトイレも用意しています。

1F



2F



3F



4F



空間がその人の本来の力を呼び戻す

元ちゃんハウスは空間を大切にしています。静かで、落ち着いて、心地好い。空間にいて安らぐことができる。穏やかでいることができる。元ちゃんハウスの空間はその人のこころとからだに働きかけます。その人が本来備えているちからを呼び戻します。

ひとりでいることができるけど、孤りではない

元ちゃんハウスの空間にはさまざまな表情があります。訪れる人のその時々のお気持ちや思いに寄り添うことができます。程よい距離感のなかで、人とつながったり、ひとりでいることもできます。ひとりでいることはできるけれど、決して孤りではありません。

目的や用途に応じた自在なスペース

元ちゃんハウスにはさまざまな場があります。地域の人が届けてくれる折々の草花に迎えらる1階のコミュニティスペース。アートを介して互いを尊重してつながり、自分らしく生きる力を得ることができる2階のギャラリー・ケアリング、オープンキッチンや1枚板の大きなテーブル、ゆったりとしたソファスペースに畳の小上がり、個別の相談にも対応した個室がある3階のサロンスペース。4階にはスクール形式でセミナーを開催できるセミナースペースがあります。



<< 元ちゃんハウスの室内の様子が動画でご覧いただけます。
<https://gmk.or.jp/genchanhouse/>



〰場、から 生まれる事業

がんとむきあう会の〰場、から生まれる事業は、元ちゃんハウスに集う人たちが生み出す事業です。がんを抱える人たちが、その人たちのむきあい方でがんとむきあい、その人らしくいるために、どんな自助や互助が必要なのか。場はどんな役割や機能を果たしたら良いのか。試行錯誤を繰り返し、新しく生まれ、新しく変わっていく事業です。

【相談事業】

がんに影響を受ける方を対象に、医療の専門職やがんを経験したピアサポーターが常駐する常設の相談の場を、元ちゃんハウスに設けています。

ピアサポーター

がんを経験した人が、研修を受け、同じ当事者としての立場から、自らの経験を活かした相談活動を行います。

常設の相談の場

年間を通して月曜から金曜日、第1土曜日の11:00から16:00まで開館しています。

ナイトの交流の場

日中は元ちゃんハウスに来館できない方を対象に、月に一度、オンラインで交流の場を設けています。

医療の専門職

看護師や管理栄養士など医療の専門職が常駐し、医学的な正しい知見に基づいた相談活動を行っています。

【セミナー・プログラム事業】

「ようこそプログラム」はがんを抱えた方を対象に、〰学、〰食、〰心、〰体、に働きかける実践的なカリキュラムの他、社会参加に結びつく活動に取り組んでいます。

グリーフケア

がんで大切な家族や友人を亡くした方を対象に、気持ちや悩みを共有する交流の場を設けています。

〰学、に働きかける

医療やキャリアカウンセラーなどの専門職と共に学び、正しい理解に基づいた知識を身に付けます。



【啓発・研究・人材育成事業】

がんを抱えた人は、生活の場で何を感じ、何を思い、何に悩んでいるのか…、ここでしか表せない気持ちや本音、意見に接することができます。

医療系学生の 学びの場

病院の外の患者の姿を学ぶカリキュラムの一部や学生の自主的な活動の場として利用されています。

ピアサポーターの 実践の場

ピアサポーターの実践の受け入れや実際の活動、お互いの情報交換やつながりの場です。

フィールドワーク

広く地域の人たちに開かれた、がんや地域での支援に関連した学びと社会課題の探求の場です。

患者会活動支援

患者の方たちが自ら運営する患者会の活動や活動全般の支援、患者会同士のつながりの場です。

表現・交流の場

アートを介して互いを尊重し、つながり、自分らしく生きる力を得る、地域の人の表現と交流の場です。

食に働きかける

管理栄養士とがんを抱えていても美味しく食べられる料理のコツや、楽しむための知識を学んでいきます。

体に働きかける

理学療法士や専門家の指導で、体メンテナンスやリハビリ、アロマやヨガなど安心して取り組みます。

心に働きかける

臨床宗教師や精神科医との対話から、がんを抱えた方の健康につながる心の持ち方を学んでいきます。

地域に働きかける

がんの正しい知識に基づいた予防やがん患者の理解につながるイベントやセミナーを開催します。

〝つながり、から 生まれる事業

がんとむきあう会の〝つながり、から生まれる事業は、医療機関や行政、各種団体、ボランティア組織、学会や教育機関、メディアなどさまざまです。お互いが同じ目標を共有し、異なる立場や役割、方法で目標の達成に取り組むことで、それぞれが抱える課題が解決され、結果として共通の目標を達成する〝相利、〝という考え方をベースにしています。

【相談事業】

これまでの相談活動で培った経験と医療の専門性に基づいた知見で、社会のさまざまな場における相談活動を幅広く支援します。

相談支援

がんに影響を受ける方が安心して就労できるために必要な相談体制の構築の支援を行います。

就労支援

診断から治療、療養、復職まで、がんに影響を受ける方の生活と就労を支援する体制の構築をサポートします。

相談窓口

働く方ががんに関する専用の相談窓口の業務を、サテライトやオンライン、メールなどで提供します。

相談ネットワーク

全国各地における相談活動の場をつないで、情報の共有に取り組み、ネットワークを構築します。

【セミナー・プログラム事業】

各種の団体や組織が取り組むセミナーやイベントなど、がんに関連したプログラムの企画から集客、運営、開催後のフォローまで包括的に支援します。

お出かけ元ちゃん ハウス

がんの啓発や予防など、団体が取り組む各種のイベントで〝1日、元ちゃんハウスを開催します。

がん教育

がんに詳しい看護師など医療の専門職が正しい知見と理解に基づいたがんとむきあい方をお伝えします。



【啓発・研究・人材育成事業】

がんの啓発や教育、研究、市場調査、商品開発、がんの正しい知識と理解を備えた人材の育成など、幅広い文脈でがんに関連した活動や事業を支援します。

がんを知る、 市民サポーター

市民や団体や組織で働く一般の方を対象に、がんの正しい知識と理解を備えた人材の育成を行います。

研究支援

がんに関連した各種の学会や教育機関、企業などの研究に、当事者の視点からリソースを提供します。

商品開発サポート

ピアサポーターや医療の専門職が当事者の視点から、がん患者に求められる商品開発をサポートします。

学会発表

医療系の学会等で、医療の専門職やピアサポーターの立場から、相談活動で得た知見を発表します。

がん啓発授業受託

行政や団体などが取り組むがんに関連した各種の事業を、医療の専門性に基づいて受託します。

ワイワイ！ 栄養セミナー

がんに詳しい管理栄養士と健康に役立つ食の知識やアイデア、楽しむための知恵を共に学んでいきます。

eラーニング プログラム

がんの当事者の視点から、がんの正しい知識と理解を啓発するコンテンツをオンラインで提供します。

※安心就労サポート

がんに関する詳しいキャリアカウンセラーが、がんの治療や療養と両立する就労の仕方や実際についてお伝えします。

※交流プログラム

各種の団体や組織の社会活動の場として、がんを抱えた人との交流やマッチングを行います。

がんともきあう会 の沿革

「がんともきあい、その人らしく、共にいる場」を目指して、2010年の市民公開講座から活動を開始しました。2016年の特定非営利活動法人の設立とともに「元ちゃんハウス」という常設拠点を金沢市に開設し、医療・福祉・地域と連携した支援の形を育んでいます。地域での活動に加え、全国各地での講演やピアサポーターの育成、災害時の支援活動などの取り組みを広げています。

【活動への礎】2010年～2014年

2010：北陸がんプロ市民公開講座

2011：第1回「金沢一日マギーの日」→以降、市民が対象の公開講座を毎年継続して開催。

2013：がんともきあう会として活動をスタート（任意団体）

【常設の拠点づくり】2015年～2020年

2015：「食事の教室くでん」で定期的ながん患者支援活動を開始

2016：千住真理子リサイタル共催→法人設立・常設拠点づくりにむけた資金調達開始／

特定非営利活動法人がんともきあう会設立（初代理事 西村元一）／

「元ちゃんハウス」をオープン、金沢市石引に常設の拠点設立／

金沢市、国立病院機構金沢医療センターと三者協定を締結

2017：石川県や金沢市など自治体事業の委託開始／ピアサポーター育成開始／

日本癌治療学会学術集会ブース出展

2018：金沢市、金沢大学附属病院と三者協定を締結／石川県10番目の認定NPO法人として認可／

地域に開かれた暮らしの保健室開始（2021年度まで）／21世紀美術館主催展示会の場となる

2019：小松ソフィア病院協定調印／がん患者遺族の会開始／看護実習受け入れ開始

2020：新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言下での活動体制構築／

小児慢性特定疾病児童等自立支援事業受託／「北陸地区頭頸部がん患者と家族の会」発足支援

【地域・全国との連携】2021年～

2021：明證寺での講演→以降お寺での講演依頼に協力

2022：食道発声教室開始→以降患者会活動支援を続ける

2023：メールマガジンの配信開始／お出かけ元ちゃんハウス開始／チャリティーコンペ開始

2024：能登半島地震被災地支援開始／元ちゃんハウス2Fギャラリー・ケアリングオープン

2025：元ちゃんハウス文化祭開催

がんとむきあう会の出発点には設立時の理事長の西村元一と想いを共有した仲間がいます。金沢で生まれ育ち、金沢の地で医療を職とし、大腸がんを専門とした臨床に30年以上携わってきた西村ですが、2015年3月に進行性の胃がんが見つかりました。余命半年と告げられる中で、家族や仲間、医療者など周囲の支援を受け治療と療養に取り組み、2年の月日を経た2017年5月に永眠しました。58歳でした。

西村はがんが見つかる前にイギリスのマギーズがんケアリングセンターと出会い、その考え方やコンセプトに強く共感し、金沢の地にも「マギーズ的なるもの」を設立しようと考えます。2010年には仲間を集いイギリスからマギーズセンターの関係者を招いて市民公開講座を開催します。いまに続くがんとむきあう会の礎となるものでした。当初はがん患者ではなく治療をする医療者でしたが、自身ががん患者となると「これまで聴いてきたがん患者の声が、今度は自分の声としてこころの中から聴こえてきた」と語っています。病が活動の血肉となり、金沢の地におけるマギーズ的なるもの「元ちゃんハウス」の具体に向けて一歩踏み出します。

西村は「がんになったがんの専門医、という役回りを積極的に受け入れていきます。自分にしか分からない残された時間を惜しむように治療の合間を縫って全国各地に講演の行脚に出ます。体験を伝えることはもちろんですが、視線の先には元ちゃんハウスを開館するという目標がありました。自らが手となり足となり支援を集めるなかで、2016年12月に元ちゃんハウスはオープンしました。がんの告知から2年を迎えようとする前年の年末でした。

元ちゃんハウスで西村は主催者であり、利用者でした。医療者であり、患者でした。他者のための場であり、自身のための場でした。西村が元ちゃんハウスで過ごした時間はグラデーションのように役割や立場が混じり合うものでしたが、そこにはがん患者でありながら最後まで医療者としてあり続けたいとする確固たる意志が潜んでいました。西村は目標となる「マギーズ的なるもの、元ちゃんハウスを実現しました。しかし、それは目標の達成であると同時に、次なる目標に向かってのスタートでした。西村が医療者として、がん患者として、元ちゃんハウスで過ごした時間で、何を考え、何を思い、何を託そうとしたのか。このままではない、これからをどうするのか。はたして「西村元一のなるもの、とは何か。西村は「問い」と「希望」をわたしたちに贈りました。

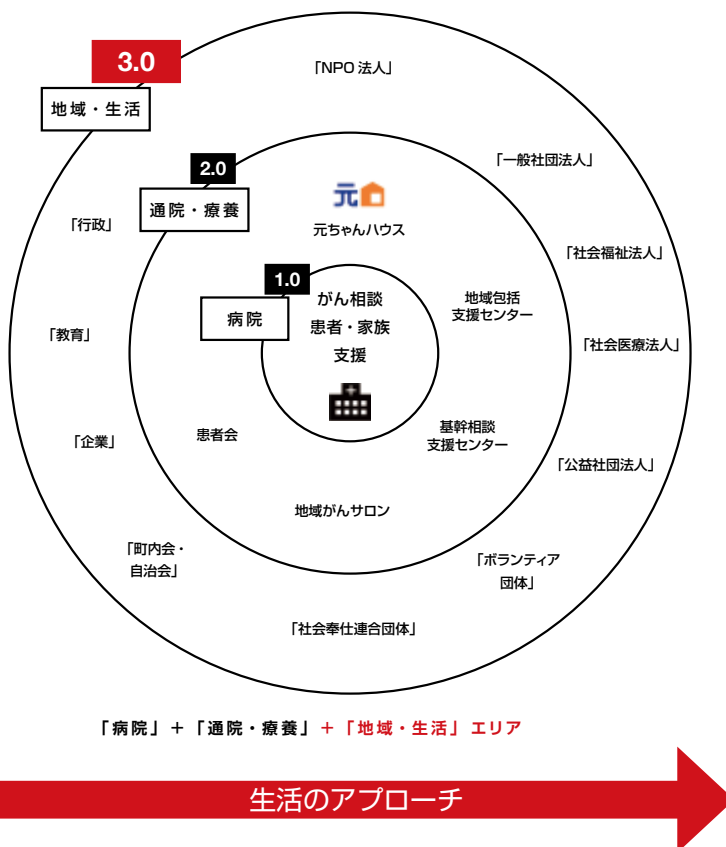
西村元一 Nishimura Genichi

1958年金沢市生まれ。1983年金沢大学医学部卒業後、金沢大学第二外科（現：消化器・腫瘍・再生外科）に入局。その後、金沢大学附属病院や関連病院勤務を経て、2008年より金沢赤十字病院副院長、外科部長。2011年より石川県医師会の理事を務める。専門は消化器外科、化学療法、チーム医療、地域連携など幅広いフィールドも。2017年5月31日惜しまれて逝去



●
これまでの
取り組みと
実績

がんを抱えた人を支える輪は当初はがん診療拠点病院や連携推進病院の相談支援センターなど病院内のエリアでした（ver1.0）。がんの診断と治療法の進歩で治療や療養の仕方が変化すると、その輪は病院に加え患者や家族、行政などが設けた通院や療養エリアにある支援施設が加わりました（ver2.0）。がんに関わる多くの人たちの地道な活動によりがん共生社会の下地が築かれてきました。これからを見据えたとき、そこに重ねるべきは「生活」という新たな文脈です。「患者」から「生活者」へのシフトです。生活の場である地域におけるさまざまな役割や立場の団体、組織との連携です。わたしたちはこれを「がん共生まちづくり3.0」と位置づけ、金沢の地から全国に向けて連携づくりに取り組んでいます。



行政	行政が取り組むがんを抱えた人のサポートやがんの予防、啓発に関するセミナーやイベント、人材育成など、専門性に基づいた立場からさまざまなメニューを提供しています。 石川県、福井県、富山県、金沢市 など。
病院	がんを抱えた人が通院するがん診療連携拠点病院や地域医療施設と連携することでがんを抱えた人を包括的に支援する体制づくりに取り組んでいます。 国立病院機構金沢医療センター、金沢大学附属病院、松原病院、小松ソフィア病院 など。
企業	企業の社会貢献活動のみならず、事業のパートナーとしてがんに関連したセミナーやイベント開催、就労支援、コンサルティング、人材派遣など幅広いニーズに対応しています。 アフラック、日本イーライリリー、エーザイ、スヴェンソン など。
団体・組織	がんを抱えた人の支援を行う団体や組織と連携し、情報を共有し、共に問題解決に取り組むことで、お互いの持続的な活動に結びつける他、新たな拠点作りの支援にも取り組んでいます。 石川県栄養士会 金沢市地域包括支援センターとびうめ 認定 NPO 法人マギーズ東京、石川県看護協会、コミュニティヘルス研究機構 など
教育機関	小・中・高等学校で必修となるがん教育の一環としての授業の他、医療関係の大学や大学院、専門教育機関の実習や研修の場として数多くの学生や専門職を迎え入れています。 金沢大学 金沢医科大学 石川県立看護大学 金沢美術工芸大学 富山県内小・中学校 など
学会	看護師や管理栄養士などの医療職とピアサポーターがそれぞれの立場から、がんとうきあう会で培った知見をもとに各種の学会で講演や発表を行っています。 日本がん治療学会、日本緩和医療学会、日本エンドオブライフケア学会、日本精神保健看護学会、日本サイコオンコロジー学会、日本在宅管理栄養学会 など。
メディア	テレビやラジオ、雑誌や書籍、SNS など各種の媒体で、がんに関連したコンテンツの作成に伴うプランニングやコンサルティングの他、がんの啓発をテーマにした番組の出演などがあります。 NHK (e テレ)、NHK フォーラム、読売新聞、毎日新聞、朝日新聞、中日新聞、北陸中日新聞、北國新聞、医学書院、ブックマン社、照林社など。
助成・受賞	認定 NPO 法人として国のがん対策推進基本計画が目標とする「地域共生社会の実現」の取り組みを補完する立場からさまざまな公的事業に取り組んでいます。 社会福祉振興助成事業、日本財団、勇美財団、正力厚生会、石川県、読売光と愛の事業団、日本栄養士会栄養改善功労賞 など

理事長 メッセージ

前理事長である夫が残された時間をかけて立ち上げた活動を2017年6月に受け継ぎました。夫が旅立った後でした。看護師の資格を持ちながら、長年、家庭に入っていた私にとって、理事長という肩書きで社会に出ていくことは大きな人生の転機でした。決断と覚悟、勇気が必要でした。おぼつかない私がこうして、ここまで活動が続けることができてるのは、ひとえに支えてくださるみなさまの存在です。共に歩んでくれる仲間が傍にいます。そして「元ちゃんハウスがあつてよかった」と言う来訪者の声です。心より感謝を申し上げます。夫の遺志を受け継いだ活動は私自身のグリーフケアでした。生きる意味でした。そして、今、次なる人たちにどうこのバトンを手渡していくか、その岐路に立っています。

がんを抱えた患者さんや家族が、その人らしくがんとむきあい、その人らしく生きていく…、がんとむきあう会は、がんに影響を受ける人がほっと一息つける、心理的な安全性が担保された常設の場を地域につくってきました。愚直に、真摯に、切実に、ぶれることなく当事者第一で歩んできました。がんという経験は患者さんだけでなく、家族や友人、学業や就労、生活など、社会全体のあり方に関わるものです。だれもががんとむきあう当事者です。だからこそ、この活動は医療、介護、福祉のみならず、地域全体として取り組んでいかなければならないと思います。大切なのは地域のひととひとのつながりです。

がんとむきあう会はこれまでに増して「内」から「外」へ打ち出ていかなければならないと考えています。そのために必要なのは「人」と「資金」です。次なる世代にバトンを引き継ぎ、「がんと共生できるまちづくり」をさらに一歩推し進めるために、皆さまの変わらぬご理解とご支援を、心よりお願い申し上げます。

次なるバトンをつなげるために。



がんとむきあう会 理事長
西村 詠子

がんを抱えた人を無料で迎え入れるために

がんとむきあう会はがんを抱えた人を無料で迎え入れることを大切にしています。がんを抱えて孤立したり、孤独に陥ったりする人たちに必要なのはつながりです。その人に寄り添い、その人と共に悩み、その人と共に考える。心理的に安全と感じてもらえる人と場の提供です。そこにはお金による約束や契約はありません。がんを抱えた人と共にある…、無償のパートナーとしての関係です。がんとむきあう会はこれまでも、これからも「がんを抱えた人を無料で迎え入れる」ことを大切にしていきたいと願っています。

【がんとむきあう会の活動を支援する】

がんとむきあう会の活動の支援には個人と団体・法人の方を対象とした「年額賛助会員」と「寄付」があります。いずれも認定 NPO 法人による税制優遇措置を受けることができます。

個人
年額賛助会員
10,000 円/口

団体・法人
年額賛助会員
50,000 円/口

個人・団体・法人
寄付
自由金額/都度

詳細につきましてはホームページ「賛助と寄付」をご覧ください。
<https://gmkn.or.jp/donation/>



認定特定非営利活動法人 がんとむきあう会

〒920-0935

石川県金沢市石引4-4-10 越屋メディカルケアビル

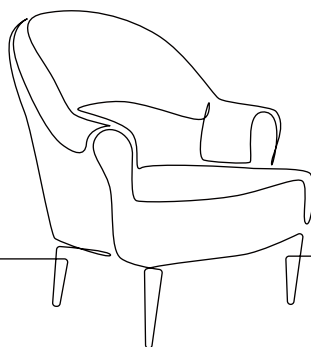
TEL/FAX : 076-232-5566 MAIL : info@gmkn.or.jp

HP : (法人) <https://gmkn.or.jp/>

(元ちゃんハウス) <https://genchanhouse.com/>

facebook : <https://www.facebook.com/gmkn20>

金沢駅から小立野経由・北陸鉄道バスで約 20 分。
「石引町」バス停下車徒歩 1 分（紫錦台中学校前）



病院では医師や看護師がまわりにいて `ひとり、ではありません。

ところが病院の外に出ると人とのつながりは希薄になります。

だからこそ病院の外にマギーのような場が必要だと思います。

がんに影響を受ける方が同じ境遇の人や専門職とつながれる場。

たとえひとりでも気にかけるだれかがつないでくれる場。

元ちゃんハウスは病院の外にある、人とひとが支え合い、

だれかと誰かがつながる場でありたいと願っています。

西村 元一

がんとむきあう会 前理事長